

春の訪れを感じる、今日の佳き日「第68回卒業証書授与式」を挙行することができ大変うれしく思います。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受ける1年となりました。各種の大会やコンクール、発表会が相次いで中止や延期となりました。高校生活3年の最後の年が、大きく変わってしまったことに対する、皆さんの残念な気持ちや悔しい気持ちをどうしてあげることもできず、私たち教員もただ困惑するばかりで、どれほどのフォローができたかと心配をしていました。

こうした心配をよそに3年生の皆さんは、年度当初の休校期間や分散登校と学習活動が遅れたものの、その後平常の授業が開始されると、徐々に世の中の動きを冷静に受け止め、部活動であれば県総体の代替大会での活躍やwebによる大会の開催での発表で優秀な成績を修めるなど、これまで蓄えてきた力を存分に発揮され、本校のレベルの高さを県内や全国へ発信してくれたと思います。こうした動きの中で私たちは、これまで当たり前できていることのありがたさや多くの関係者の方々のご尽力をあらためて知ることができたのではないのでしょうか？また、学校行事ではコロナ禍での体育祭や農業祭を行うにあたり、生徒会、農業クラブ、家庭クラブの組織が自分事としてこのことを捉え、競技種目や応援の工夫、展示や即売の方法、市民会館での開催等全校単位でのモデル的な取り組みをしてくれました。これは、1学期末の終業式の訓話の中で皆さんにお願いしたことだったのですが、知恵を出し合いこの困難な時期での全校行事を見事に乗り切り、達成感に繋げてくれたと思います。1月の生徒会、農業クラブ、家庭クラブの引き継ぎ式で生徒会長の武田さんが、こんな内容を話してくれました。「新型コロナウイルスの感染症対策で、多くの行事が中止となっていたので、あまりやることはないかと思っていましたが、逆に考えなければならぬことが多く大変忙しかった。」と述べていました。このお話を聞いて、執行部を始めとした役員やクラスの委員と一緒に取り組んだ様子が伺えました。この取り組みから、皆さんは、様々な困難さに立ち向かう勇気と仲間と助け合うことの大切さを1、2年生を巻き込んで実践してくれたと思います。

さて、今後の社会の動きを見ますとICTやAIが時代を大きく変えようとしていると思います。これは、コロナ禍での働き方や社会の仕組みを考えるうえで急速に進化していると思います。農業の分野でも栽培管理における様々な気象や施設内での環境測定とそのデータ管理、収量や出荷先での販売金額など今までは自分で管理することができず、その分析や対策はJAや試験場など他の機関へ任せていたことも、実際にその動きを読み取ることができます。つまり、これからは自分で、経営戦力を具体的に立案することが重要となってきます。そうした中で大切なことは、自分の考えや価値観です。自分の考えをしっかりと持ちまた他人の考え方に耳を傾け、より良い方向に話し合いをしていくことが大切であると思います。同時に、人にはそれぞれ多様な価値観があると思います。その多様性を認めながら、自分の目指すところにゆっくり確実に進んで欲しいと思います。

4月からの皆さんの生活は大きく変化します。新たな学校に入り専門性をさらに深める人、仕事に就き地域や社会に貢献する人など様々ではありますが、学問や仕事のおもしろみは、そんなにすぐには分からないと私は考えます。私のこれまでを振り返っても、教職という仕事に就き「うまくできた、更によくするために次はこうしていこう」など胸の高鳴りが実感できるようになったのは、年齢が30代に入ってからだったと思います。多くの時間が必要であり、多くの経験からやっとその答えを見つけ出すことになると思います。決して早い段階であきらめてしまうのではなく、粘り強くその本質を見極め、総合実習や地域と連携した課題研究を通して本校で培った<sup>ちから</sup>人間力を発揮して、社会に貢献できる人材として更に成長していくことを希望しています。

最後になりましたが、保護者の皆さま、お子様のご卒業を高いところからではありますが、心からお祝い申し上げます。おめでとうございます。3年間、お預かりしたお子様は私たちの指導が十分でなかったにもかかわらず、このように立派に成長されました。本日まで本校の教育活動にご理解とご協力、ご支援いただきましたことにあらためて、お礼を申し上げますとともに、今後とも本校の応援をしていただきますと喜びます。

3年生148名の卒業を心から祝福し、幸多からんことを願って式辞と致します。

令和3年3月1日

島根県立出雲農林高等学校 校長 山根 登